

2023年12月11日

会社名：東京インキ株式会社
代表者名：代表取締役社長 堀川 聡
(コード番号 4635 東証スタンダード市場)
問合せ先：執行役員社長室長 鹿野 昌和
(TEL. 03-5902-7621)

長期ビジョン策定に関するお知らせ

当社グループは本年創立100周年を迎えるにあたり、2030年に目指す姿として長期ビジョン「TOKYOink Vision 2030」を策定いたしましたので、お知らせいたします。

記

当社グループは企業理念である「暮らしを彩る、暮らしに役立つものづくりで、社会に貢献する。」と目指すべき企業像として「色彩を軸に、市場が求める価値をお客様と共に創造、実現し続ける企業。」を掲げ、日々活動しております。

長期ビジョン策定にあたり、これからの持続可能な社会（サステナビリティ）のために何ができるのかの観点から、改めて「東京インキグループのパーパス（存在意義）」を問い直しました。

パーパスとバリュー（行動指針）の浸透を推し進めることで、新たな価値を創造できる人材の創出、マインドの醸成を図り、高効率で安定した企業基盤を構築するとともに、製品・サービスを通じて持続可能な価値を提供し、環境・社会と共存共栄できる企業経営を推進してまいります。

色彩を軸に、インキやプラスチックに代表される化学品を扱うBtoBメーカーである当社グループにとって、現在の地球環境の変化やライフスタイルの変化は厳しい外部環境であることは間違いありません。

一方で、100年の歴史とともに、これからも暮らしの中でなくてはならない製品を作り続けていくことが、当社グループがこの先の100年に向けて成長していく原点であると考えております。

2030年までのビジョンとして、「持続可能な価値を提供し続ける企業グループへ」を掲げ、サステナブル対応製品比率向上、GHG排出量削減などを目標とし、期間中の中期経営計画で具体的な施策を実行してまいります。

詳細につきましては、添付資料「TOKYOink Vision 2030」をご覧ください。

以 上

2023年12月11日

長期ビジョン

TOKYO *ink* Vision 2030


証券コード：4635
東証スタンダード市場

TOKYO *ink*
東京インキ株式会社



長期ビジョン(2030年に目指す姿)策定にあたって

東京インキグループは100周年のこのタイミングに合わせ、2030年に目指す姿である長期ビジョン「TOKYOink Vision 2030」を策定いたしました。



東京インキグループは企業理念である「暮らしを彩る、暮らしに役立つものづくりで、社会に貢献する。」と目指すべき企業像として「色彩を軸に、市場が求める価値をお客様と共に創造、実現し続ける企業。」を掲げ、現在中期経営計画である「TOKYOink 2024」を実行中です。

その中で、新たな行動指針や人事制度の策定などを進めてきましたが、長期ビジョンの策定に際し、100年の伝統を踏まえた上で、これからの持続可能な社会のために何ができるのか？の観点から、改めて「東京インキグループのパーパス(存在意義)」を問い直しました。

色彩を軸に、インキやプラスチックに代表される化学品を扱うBtoBメーカーである東京インキグループにとって、現在の地球環境の変化やライフスタイルの変化は厳しい外部環境であることは間違いありません。

一方で、100年の歴史とともに、これからも暮らしの中でなくてはならない製品を作り続けていくことこそが、東京インキグループがこの先の100年に向けて成長していく原点であると考えております。

本資料は2030年までの長期ビジョンとその考え方を説明する資料となります。
東京インキグループの「これから」を説明しておりますので、ぜひご一読いただければ幸いです。



代表取締役社長
堀川 聡



パーパス(存在意義)と理念について

PURPOSE

パーパス(存在意義)

「伝える」「彩る」「守る」ことで、 豊かな未来を実現する

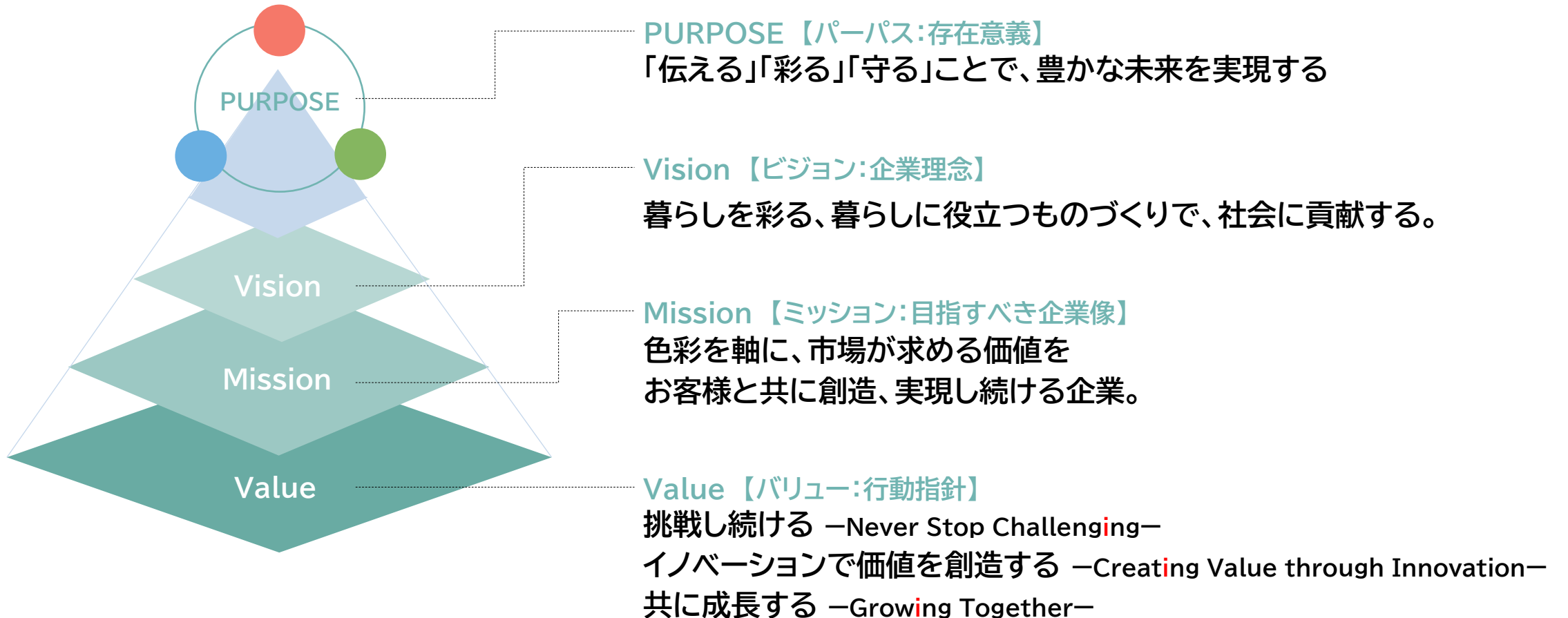
持続可能な社会(サステナビリティ)が重要とされる現代社会では、東京インキグループの主要3事業の中で作り上げる「伝える」製品、「彩る」製品は、人々の生活の質の向上・充実には必要不可欠です。

一方、「守る」製品群の開発は地球環境保全や気候変動、食品ロスなど、社会課題の解決に向けてメーカーとして取り組むべき重要なテーマです。

中間品を製造しているBtoBメーカーである東京インキグループは、幅広い市場や分野、用途に「伝える」「彩る」「守る」製品を供給することで、地球環境を守り、人々の暮らしを豊かに支え続けることこそが、存在意義であると位置づけました。

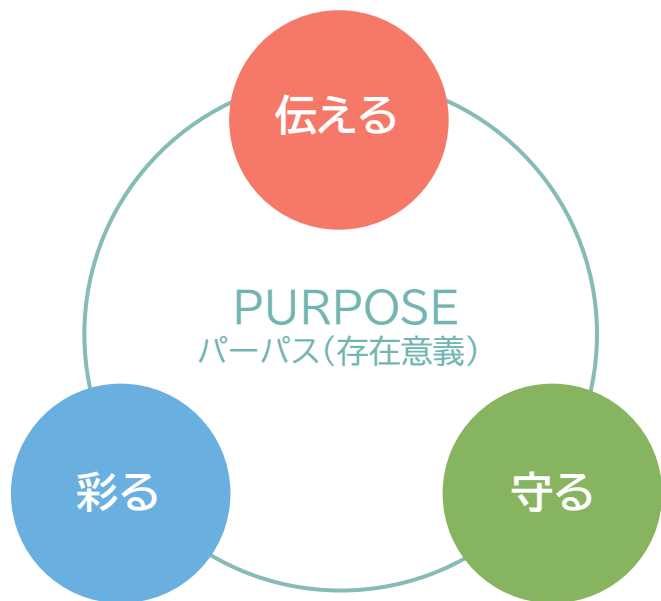
パーパス(存在意義)と理念について

存在意義を貫くためにあるのが、企業理念、目指すべき企業像、行動指針です。



パーパス(存在意義)と事業領域

「伝える」「彩る」「守る」ことで、豊かな未来を実現する



- 人と人との間をつなぎ、「伝える」ことで、これからも暮らしに貢献していきます。

インキ事業

化成品事業

「紙」への印刷だけでなく、デジタル化が進んだ現在においても、印刷インキは情報伝達のための重要な役割を果たし続けています。

また、プラスチック製品においても容器等さまざまな用途で「伝える」役割を担っています。

- 身の回りを「彩る」ことで、これからも我々の生活を豊かにしていきます。

インキ事業

化成品事業

加工品事業

美しい色、鮮やかな色。わたしたちの身の回りは多くの彩りにあふれています。

多種多様な色材を材料に混ぜる、練り込む技術を高めることで、世の中へさまざまな「彩り」を提供しています。

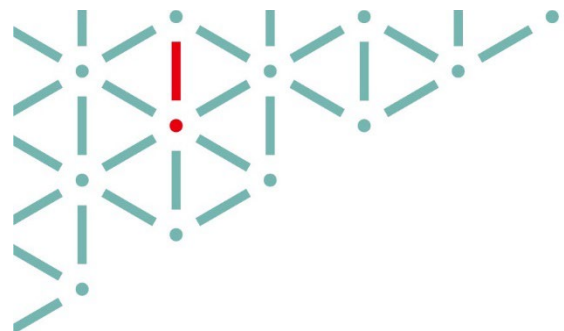
- 地球や我々の生活を「守る」ことで、これからの社会に貢献していきます。

インキ事業

化成品事業

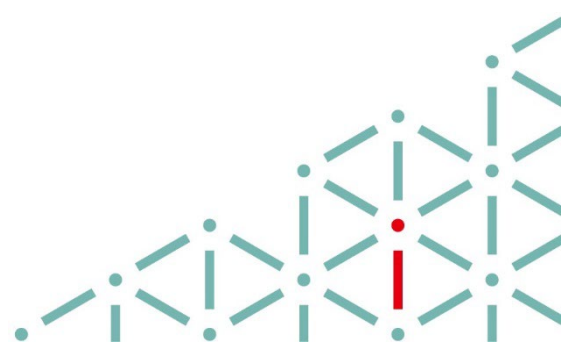
加工品事業

紫外線や酸素から食品や製品を守る機能性コート剤・マスターバッチ製品、地球環境を守るバイオマス製品の拡充やリサイクル製品を通じたサーキュラーエコノミーへの参画、災害から大切な命・財産を守る土木製品、日本の農業を守る機能製品の開発など、新たなニーズや持続可能な社会構築のため、「守る」製品の開発を進めています。



東京インキグループの概要

～創業100年のあゆみと姿～



100年のあゆみ

1923～

事業基盤の確立と技術革新

- 巣鴨にて創業（インキ）
- 田端工場にてワニス・インキの一貫生産体制を構築
- グラビアインキ生産を開始
- プラスチック着色剤の開発により、**化成品**市場に参入
- 合成樹脂型インキ(現在のオフセットインキ)生産開始

1960～

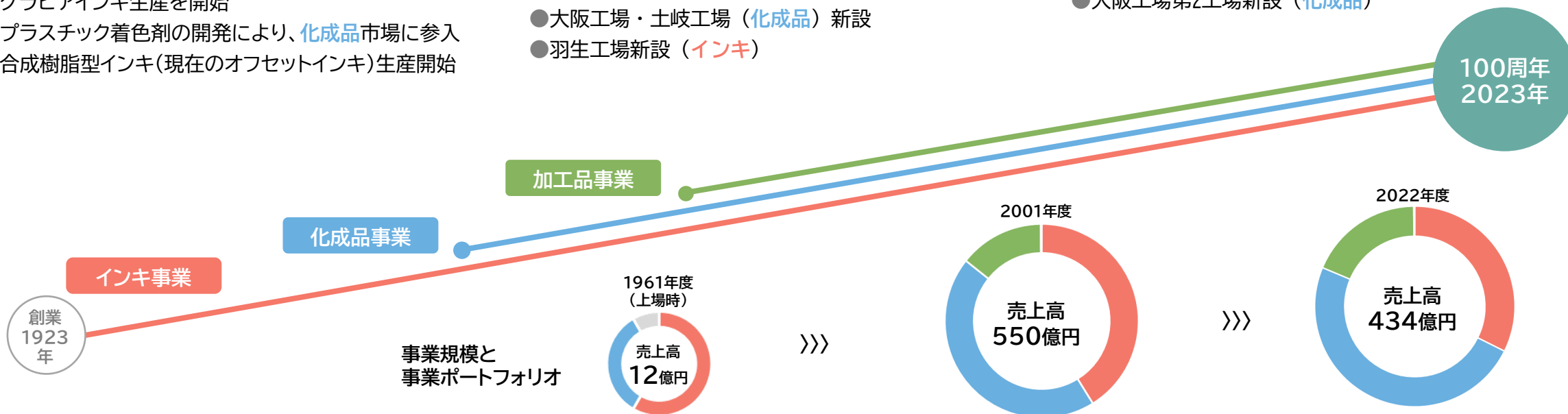
事業拡大と新たな事業の創出

- 東証2部上場（現在のスタンダード市場）
- プラスチック成形加工事業（**加工品**）進出
- 東京インキ株式会社U. S. A. 設立
- 吉野原工場（**化成品**・**インキ**）新設
- 大阪工場・土岐工場（**化成品**）新設
- 羽生工場新設（**インキ**）

1992～

次なる成長に向けた変革

- 東京油墨貿易（上海）有限公司設立（**インキ**・**化成品**・**加工品**）
- 東京インキ（タイ）設立（**化成品**）
- 東洋整機樹脂加工連結子会社化（**加工品**）
- 荒川塗料工業株式会社連結子会社化（**インキ**）
- 土岐工場第2工場（クリーン工場）新設（**化成品**）
- 大阪工場第2工場新設（**化成品**）



持続的成長実現のための事業基盤

100年に亘って築き上げてきた基盤技術を基にしたコア技術、主要3事業を通して展開してきた幅広い市場・用途に対するさまざまな製品群を持つことが、東京インキグループの現在の姿であると考えます。

基盤技術	コア技術	関連事業
● 顔料分散技術	● 濡れ制御技術 ● 微細化技術 ● 分級技術	● インキ事業 ● 化成品事業
● 材料配合技術	● 調色技術 ● 材料選定技術 ● 樹脂改質技術	● インキ事業 ● 化成品事業 ● 加工品事業
● 混練技術	● 設備設計技術	● インキ事業 ● 化成品事業
● 成形加工技術	● 金型設計技術	● 加工品事業
● 分析評価技術		● 3事業

ポイント

- ・事業の広がりとともに獲得してきた基盤技術
- ・基盤技術を基にした競争優位性のあるコア技術

幅広い市場と用途		
● インキ事業	● 化成品事業	● 加工品事業
● 出版印刷	● 包装資材	● 土木資材
● 商業印刷	● 自動車内外装	● 水処理資材
● 包装印刷	● 農業資材	● 農業資材
● 建築材印刷	● 日用品・雑貨	● 食品包装
● その他印刷	● 機械・器具	● 産業資材
	● 医療・医薬	● その他
	● その他	

ポイント

- ・広範な市場領域・用途をカバーする製品群
- ・企業規模の大小を問わない広範な取引先
⇒ マーケットニーズのタイムリーな把握



持続的成長実現の源泉となる6つの資本

6つの資本を最大限に活用することで、持続的成長の原動力にしていきたいと考えています。

人的資本

連結
従業員数

699人

「TOKYOink 2024」に連動した人事戦略を策定し、成長戦略を描ける人材を獲得・育成するために個々人の活躍・成長を促進するプラットフォームとなる新たな人事制度の定着により、企業体質の変革を目指します。

製造資本

生産拠点数

12拠点

製品・サービスの安全および品質を最優先として高効率な生産と従業員の安全に配慮した生産拠点を目指します。

知的資本

研究開発費

10億円

目指すべき企業像「色彩を軸に、市場が求める価値をお客様と共に創造、実現し続ける企業」の実現を目指し、新しい技術開発に取り組みます。

財務資本

総資産

477億円

持続的な成長を支える健全性の高い財務基盤の拡充と株主還元のバランスを取りながら、事業変革に向けた投資を進めます。

自然資本

エネルギー
消費量

10,503kl

気候変動への対応、資源の循環や地球環境の保全について、審議・承認しています。
主要な生産拠点に環境マネジメントシステムを確立し、環境管理レベルの向上に努めています。

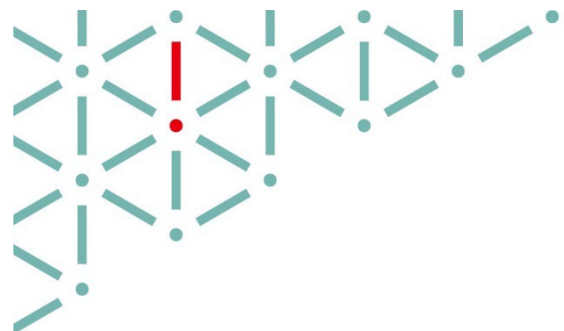
社会関係資本

顧客数

2,860社

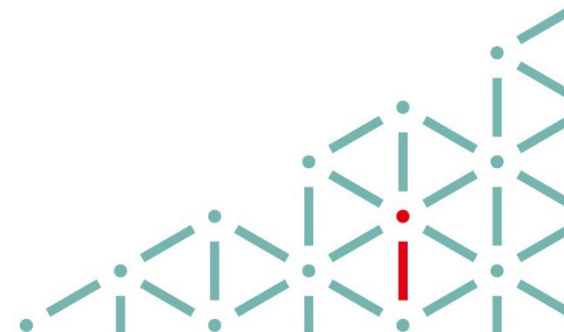
人権の尊重、お客様との関係強化、地域社会との共存共栄を目指します。

*2023年3月31日時点 自然資本は2022年度計



東京インキグループの長期ビジョン

～2030年に目指す姿～



2030年までのメガトレンド ～「リスク」と「機会」～サステナビリティの観点から

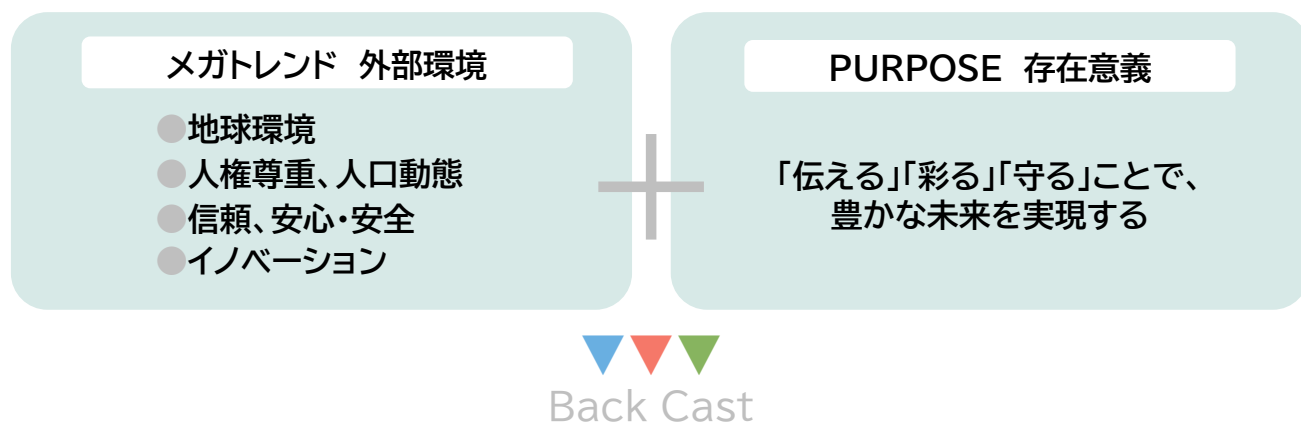
持続可能な社会(サステナビリティ)の観点から、経営環境の変化による「リスク」と「機会」の適切な把握を経営の重要な要素として捉え、環境変化の中で従来事業の枠を越えた変革を進めることに取り組んでいます。

● ● ● サステナビリティ ● ● ●

	メガトレンド	経営に与える重要なリスク	機会
地球環境	<ul style="list-style-type: none"> ・温暖化社会への対応 ・水資源の枯渇 ・石油資源の枯渇 ・災害の甚大化 	<ul style="list-style-type: none"> ・気温上昇による投資コストの上昇 ・エネルギーコストの上昇 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境負荷低減や社会課題解決に資する新製品開発による新しい価値の創出
人権尊重 人口動態	<ul style="list-style-type: none"> ・人権の尊重 ・労働人口の減少 ・超高齢化社会 ・働き方の多様化 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な個や働き方への対応の遅れ 	<ul style="list-style-type: none"> ・成長戦略を描ける人材の育成・創出によるイノベーションの促進
信頼 安心・安全	<ul style="list-style-type: none"> ・労働安全衛生 ・化学物質管理 ・ガバナンス強化 ・コンプライアンス 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全対策や品質確保体制の不足・不備 	<ul style="list-style-type: none"> ・お客様の品質を確保することによる信頼の獲得
イノベーション	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決のための技術革新 ・自動化・省人化 ・省エネルギー ・DXの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・サステナビリティに対応した製品開発遅れによる売上・利益の喪失 ・省エネルギー対応不足による操業コストの上昇 ・ITツールの活用不足による非効率業務の継続 	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い市場・用途を展開しているお客様とのシナジーの創出 ・モノづくりのイノベーションによる価値の最大化

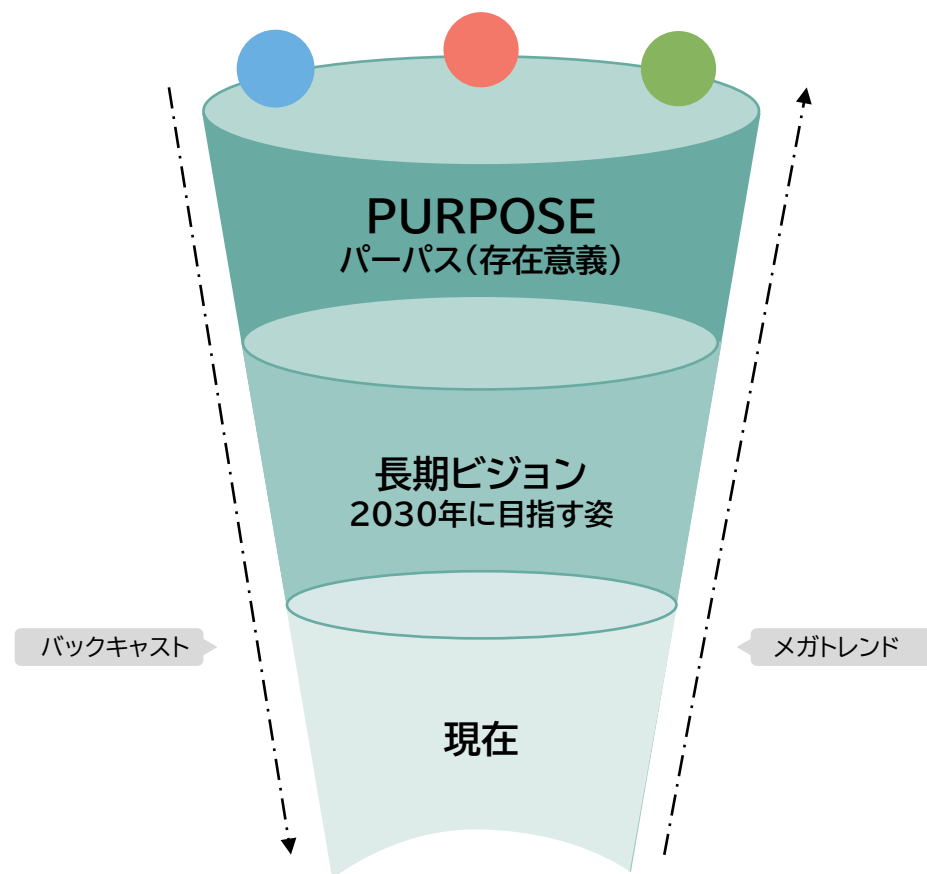
2030年に向けてのマテリアリティ(重要課題)の決定

持続可能な社会(サステナビリティ)の観点からみたメガトレンド、「リスク」と「機会」を踏まえた上で、東京インキグループにとってのマテリアリティ(重要課題)を決定しました。2030年に目指す姿からバックキャストし、4つのマテリアリティ(重要課題)に集約しています。



長期ビジョンでのマテリアリティ

- 1 製品・サービスを通じた持続可能な社会に対する価値の提供
- 2 環境・社会と共存共栄する企業経営の推進
- 3 高効率で安定した企業基盤づくり
- 4 新たな価値を創造できる人材の創出とマインドの醸成



2030年に向けてのマテリアリティ(重要課題)へのアプローチ

長期ビジョン(2030年に目指す姿)達成に必要なマテリアリティ(重要課題)へのアプローチについてまとめました。具体的な施策や指標などは期間中の中期経営計画の中で決定し推進していきます。

長期ビジョンでのマテリアリティ

アプローチ

● ビジネスアプローチ ● プラットフォームアプローチ ● マインドセットアプローチ

マテリアリティ

1

製品・サービスを通じた持続可能な社会に対する価値の提供

➤

- サステナブル対応製品の充実
- 市場ニーズの的確な把握

マテリアリティ

2

環境・社会と共存共栄する企業経営の推進

➤

- 気候変動への対応
- 社会的貢献
- 人的資本経営の推進と人権の尊重
- 労働安全衛生

マテリアリティ

3

高効率で安定した企業基盤づくり

➤

- 財務資本戦略
- 高効率化
- コーポレート・ガバナンス体制の強化

マテリアリティ

4

新たな価値を創造できる人材の創出とマインドの醸成

➤

- 行動指針を体現できる人材の育成と企業文化の醸成



長期ビジョン ～2030年に目指す姿～

TOKYO_{ink} Vision 2030

持続可能な価値を提供し続ける
企業グループへ

TOKYO_{ink} 2024

～ 飛躍への準備 ～

TOKYO_{ink} 2027

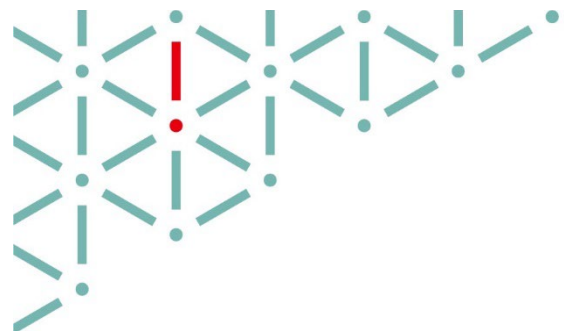
～ 変革の実践 ～

TOKYO_{ink} 2030

～ 新たな価値の創出 ～

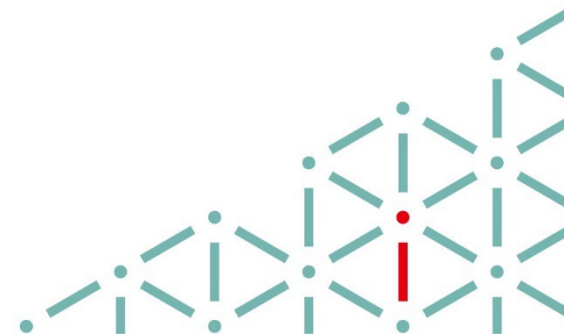
2030年目標

- サステナブル対応製品比率の向上
- GHG排出量削減: ▲50%(2030年)
* 2013年対比・Scope1,2
- パーパスとバリューの浸透
- 2050年カーボンニュートラルの
実現に向けた活動を推進
- エンゲージメントスコアの向上

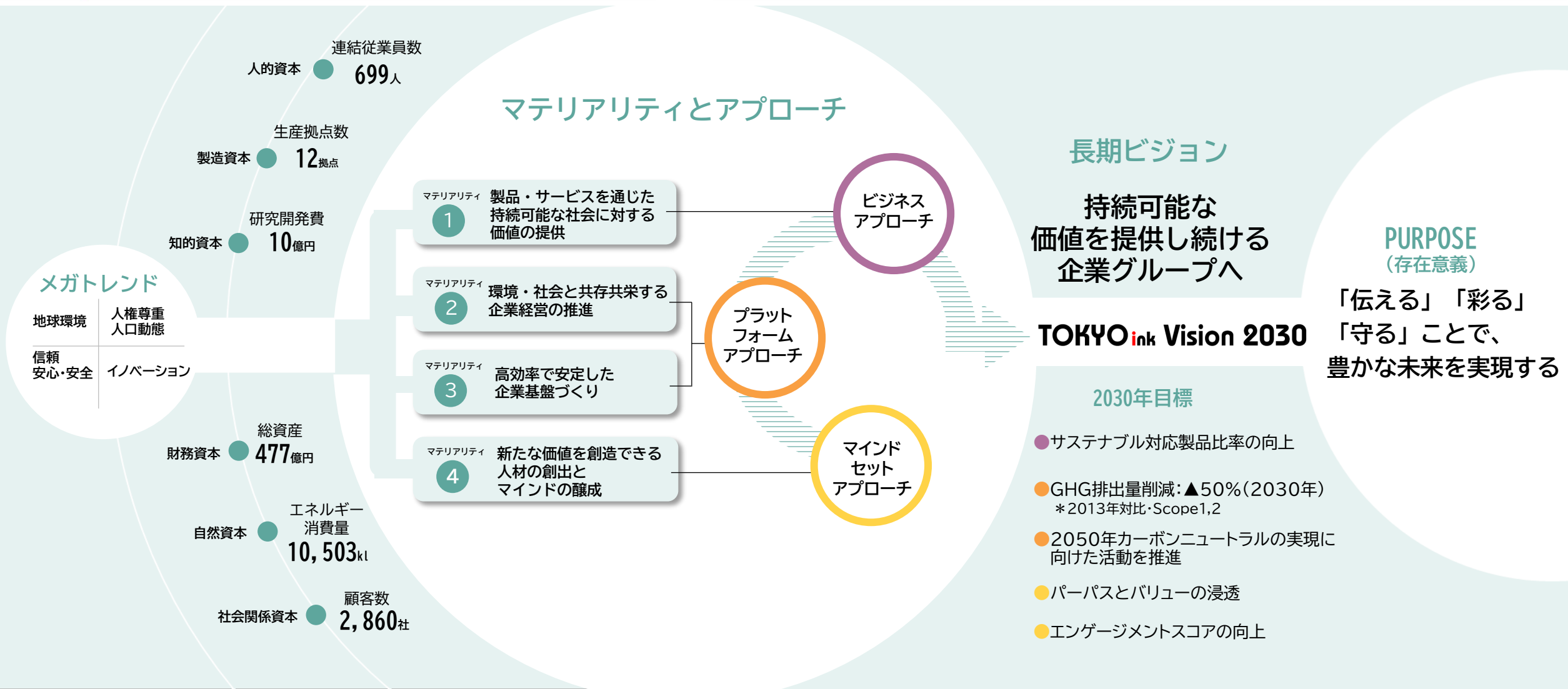
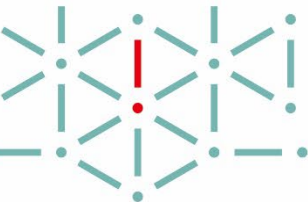


価値創造プロセス

～長期ビジョン(2030年に目指す姿)の実現に向けて～



価値創造プロセス



ビジネスアプローチ

3つの主力事業で社会課題の解決と新たな事業の創出・拡大を目指していきます。

マテリアリティとアプローチ	事業	戦略	提供価値
<p>マテリアリティ①</p> <p>製品・サービスを通じた持続可能な社会に対する価値の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ● サステナブル対応製品の充実 ● 市場ニーズの的確な把握 	<p>インキ事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業内ポートフォリオの変革 <ul style="list-style-type: none"> ・ オフセットインキ：市場規模に対応した事業運営体制へ ・ グラビアインキ：機能性製品を軸とした事業規模の拡大 ・ インクジェットインク：産業用インクジェットで価値を創造 ・ サステナブル製品比率の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ● CO2排出量削減 ● バイオマス化 ● 省エネルギー ● 食品ロス低減 ● 易リサイクル性
	<p>化成品事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業内ポートフォリオの変革 <ul style="list-style-type: none"> ・ サステナブル製品開発と製品の拡大 ・ サーキュラーエコノミーへの参画 ・ モビリティ領域の拡大 ・ ヘルスケア領域の拡大 ・ デジタルデバイス領域の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ● CO2排出量削減 ● バイオマス化 ● 省エネルギー ● 易リサイクル性 ● 廃棄物削減
	<p>加工品事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ネットロン工材：水処理分野での製品開発強化 ● ネットロン包材：環境・サステナブル（バイオマス）製品の伸長 ● 一軸延伸フィルム：環境・サステナブル（モノマテ・減容）製品の伸長 ● 土木：防災・減災分野への製品・工法開発強化 緑化・CO2削減・省人化等対応製品・工法伸長 ● 農材：施設園芸に於ける燃料費削減に対応した遮光・断熱製品の拡充 	<ul style="list-style-type: none"> ● インフラ整備 ● 水資源確保 ● 防災・減災 ● 省エネルギー・省力化 ● 廃棄物削減 ● 食料資源確保

プラットフォームアプローチ

持続可能な社会(サステナビリティ)実現の手段の一つとして、ESGのアプローチでの基盤整備を行います。

マテリアリティとアプローチ	ESG	推進	提供価値
<p>マテリアリティ②</p> <p>環境・社会と共存共栄する 企業経営の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 気候変動への対応 ● 人的資本経営の推進と人権の尊重 ● 社会貢献 ● 労働安全衛生 	<p>E (環境)</p> <hr/> <p>S (社会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 再生可能エネルギーの有効活用 ● 生産エネルギーの低減 ● 省エネ設備の積極的導入 ● 人事制度の定着と着実な運用 ● 健康経営の推進 ● 地域コミュニティとの積極的交流 ● 安全設備への積極投資 ● 安全活動の促進 ● 労働環境の改善 	<ul style="list-style-type: none"> ● 脱炭素社会・循環型社会への貢献 ● イノベーション創出人材の育成 ● 多様な働き方による生産性向上 ● 次世代人材の育成支援 ● 障がい者就労支援 ● 環境保全活動 ● 安心・安全な職場環境の提供
<p>マテリアリティ③</p> <p>高効率で安定した 企業基盤づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 財務資本戦略 ● 高効率化 ● コーポレート・ガバナンス体制の強化 	<p>G (ガバナンス)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 持続可能な成長を支える資本効率性の改善 ● 各事業の稼ぐ力への注力 ● 適切なリスクマネジメントプロセスの実行 ● コンプライアンスの徹底 ● 公平かつ迅速な情報開示 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ● 業務システムの効率的運用 ● 生産ラインの高度化（自動化・省力化） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 株主価値の向上 ● 価値向上による株主還元 ● 働きやすい職場環境の提供 ● あらゆるステークホルダーからの信頼 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ● 働きやすい職場環境の提供 ● 企業価値の向上

マインドセットアプローチ

理念の理解と共感を得ることで、求める人物像の創出と目指すべき企業文化を醸成します。

マテリアリティとアプローチ	カテゴリー	取り組み	求める人物像と目指すべき企業文化
<p data-bbox="275 725 555 772">マテリアリティ④</p> <p data-bbox="206 805 690 886">新たな価値を創造できる 人材の創出とマインドの醸成</p> <ul data-bbox="198 925 708 1001" style="list-style-type: none">● 行動指針を体現できる人材の育成と企業文化の醸成	<p data-bbox="792 662 988 729">個人の マインドセット</p> <hr/> <p data-bbox="792 1033 988 1100">組織の マインドセット</p>	<ul data-bbox="1090 539 1735 572" style="list-style-type: none">● パーパス・理念の理解・共感とValueの実践 <p data-bbox="1116 605 1207 638">Value</p> <ul data-bbox="1123 648 1658 891" style="list-style-type: none">・ 挑戦し続ける—Never Stop Challenging—・ イノベーションで価値を創造する—Creating Value through Innovation—・ 共に成長する—Growing Together— <hr/> <ul data-bbox="1090 1011 1625 1129" style="list-style-type: none">● パーパス・理念の浸透● 多様な人材が活躍できる制度設計や教育体系の整備	<p data-bbox="1888 534 2066 566">求める人物像</p> <ul data-bbox="1905 576 2415 819" style="list-style-type: none">・ 広範囲への興味を持って、価値創造型思考ができる人物・ チャレンジ精神と実行力がある人物・ 相手を尊重しながら自分の気持ちを伝えるコミュニケーション能力がある人物 <p data-bbox="1888 862 2160 895">目指すべき企業文化</p> <ul data-bbox="1905 905 2415 1233" style="list-style-type: none">・ わくわくするような前向きな提案やアイデアを生み出し、チャレンジを楽しむ・ 相手を尊重しながら、誰もが等しく意見を述べ、意見の違う人を含めて、全員がコミットし、良い結果に繋げる



PURPOSE
パーパス(存在意義)

「伝える」「彩る」「守る」ことで、
豊かな未来を実現する



TOKYOink
東京インキ株式会社